



アダム見聞録

気軽に私の所へ来てください の巻

国際交流員 アダム・シモンズ

店の看板や洋服や書物のなかで日本語の次に見かける言語は英語かもしれません。日本では、日本語よりも一般的に英語で表現されている言葉があります。例えば「トメスティック・バイオレンス」、「アウトドア」、「イベント」という英語は、それぞれ「家庭内暴力」、「戸外」、「行事」と日本語でも表現できます。このまま英語による表現が増える

と、日本語はどのようなのでしょうか。ちよつと極端ですが、英語の最後に



「My name is Adamだ。」または、「Let's eat sushi, huh?」などというような言葉となつても「日本語」と言えるのかな?

日本が完全に英語圏の国になることはまだないと思います。「日本は国際化が進んでいるから英語の看板や宣伝などが増えてきた」と思っている人もいるかもしれませんが、外国人のための表示だけではなく、日本人向けの英語も多いです。

日本人にとって英語は魅力的とか、格好いいとか、かわいいなどのさまざまなイメージがあるので看板やコマシヤル、パッケージ、商品名、洋服などによく使われているという話を聞いたことがあります。でも、こういう和製英語には不自然で意味が商品に合わないものや意味不明のものも多いです。

ある外国語大学のスポーツ大会に「Try Your Gut si」という旗がありました。

「Guts」には確かに「根性」という意味もありますが、この場合の表現では「内臓」という意味となり、「自分の内臓を試して!」となつてしまします。本来なら「Do Your Best」が本当かな。

英語を理解している人にチェックをしてもらわないためにチラシやメニューなどに間違つた英語が使われているところがあります。「r」の書き違いだけで意味が変わる表現は多いです。ある航空会社のパンフレットに載つていた「A flight to Okinawa - Nonstop Flight」(秋田から沖縄へ・終わりのない恐怖)や、あるレストランのメニューの「Fresh Juice」(肉ジュース)は特に恐ろしい例です。

日本のTシャツに書かれている英語は海外でもおかしいと有名です。例えば、ある女性のTシャツに花やハートマークに囲まれて「I hate myself and I want to die」

(自分は嫌い、死にたい)と書いてありました。これよりおかしな文字が印刷されているTシャツや洋服はたくさんあります。書いてある外国語の意味を確認したうえで買うようにお勧めします。

もっとも、わけのわからない外国語が書いてある洋服を着るのは日本人だけではありません。最近、母国のオーストラリアでも「青」、「福」、「女」、「美少年好意」などの漢字の書いてあるTシャツをよく見かけるようになりました。「女力」という入れ墨をしている芸能人を見たこともあります。これもほとんどのオーストラリア人には読めないし、珍しくて格好いいと思われるから使われています。

このようにデザインの一部として外国語を使うのは面白いかもしれませんが、気をつけなければならぬと思います。英語も、日本語もパターンや絵ではなくて、意味のある言葉です。その言葉が理解できる人に見られたらどう思われるかを考えた方がいいです。

この記事を読んでいるあなたが今着ている服はどうでしょう。もし、意味不明の英語が書かれている場合は、気軽に私の所へ来てください。他国の言葉を尊重することは、国際理解の大切なことだと思います。



クラリッサ・フォースタさん

大府市とオーストラリア・ポート・フィリップ市との姉妹都市交流活動の中には、交換派遣職員プログラムという他の市町にはあまり見られない事業があります。

2月3日に、ポート・フィリップ市から3人目の交換派遣職員として同市役所環境課職員のクラリッサ・フォースタさんが来日しました。

大府市には約3カ月間滞在する予定です。滞在期間中は大府市民との出会いを楽しんでいます。また、大府のみなさんと環境問題について考えたり、アダプトプログラムにつ

アダム見聞録

フーイ!

姉妹都市職員クラリッサ・フォースタさん来日の巻

国際交流員 アダム・シモンズ

いて積極的に行動を起こしたいと思っているそうです。

みなさんに会えることを楽しみにしているそうなので、見かけたら声をかけてあげてください。ここからは、クラリッサさんに自己紹介をお願いいたします。

G, day!

はじめまして! 2月から、姉妹都市交換派遣職員プログラムで3カ月間、大府市で働くことになりました。クラリッサ・フォースタと申します。ポート・フィリップ市では、ごみや環境教育プロジェクトを担当しています。ポート・フィリップ市役所には2年以上勤めています。その間、さまざまな学校、企業、市民、そしてポート・フィリップ市職員が関わった環境教育プログラムを企画し、実行しました。

大府市に来ることができてとてもうれしいです。以前、新潟県のス

キー場で3カ月間働いていたことがあります。すてきな日本人の方々に会って、とても楽しい時間でした。日本語や日本の文化と再び親しむことやたくさんの大府市民の方と出会うことを楽しみにしています。

大府市に派遣されることによって、社会人としても人間としてもひとまわり大きくなることできると思っています。

大府市にいる間、毎年9月に行っているクリーン・アップ・ザ・ワールドと同じようなクリーン・アップ・大府・デイを企画して、実行したいと思っています。クリーン・アップ終了後、オーストラリア風のバーベキューができればいいなと思っています。

戸外が大好きで、ハイキングしたり、サイクリングしたり、新しい所を探索したりして、なるべく外で時間を過ごすようにしています。ソフトボールやテニスからバレーボール

やバドミントンまで、色々なスポーツも好きです。私と試合をしてみたい方、大歓迎します!

友人と飲んだり、外食したり、音楽を聴いたりすることも好きです。食べることでだけでなく、料理することも好きです。特に日本料理はどれも大好き!

大府市とポート・フィリップ市の類似点と相違点を見て、今まで成長してきた姉妹都市関係をさらに深めることを楽しみにしています。

よろしく願います!

大府市では、クラリッサ・フォースタさんと一緒に大府市の環境問題を考えていただける方やアダプトプログラムを積極的に行っていた方を募集する予定です。その際には、ぜひ、みなさん応募してください。

＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝



1月に長崎に行ってきました。日本の国際化への歴史を振り返るときに長崎は、重要なまちです。鎖国時代に、長崎の出島ではポルトガル、オランダ、中国などの国との貿易は許されました。

現在は、おいしいちゃんぽんが味わえる中華街や出島が復元されています。ヨーロッパ風の教会のような建物もあります。長崎に来ると国際的な雰囲気を経験することが出来ます。

ハウステンボスなどの観光地には行きませんが、日本の国際化への道のりを、歴史的に振り返ることができるようなところをたくさん見て、とても面白い一人旅行でした。海外で、長崎の名前がよく知られているのは原爆が落とされた場所だからです。当然、原爆資料館にも行きました。以前、広島平和記念資料館にも行ったことがありましたの

アダム見聞録

長崎に行ってきましたの巻

国際交流員 アダム・シモンズ

で、長崎の原爆資料館にも興味がありました。入館すると、被爆者やその家族の貴重な物が展示されていて、一つ一つを見ているうちに半日が過ぎました。展示物を見ると、戦争という行為や原爆を落としたという行為などについて、「本当に人間が人間にやったことか」と目を背けたいなります。あらためて戦争の恐ろしさや人間の残酷さに強い反感を感じました。

今、世界の国々、特に大量破壊兵器を持っている国々が長崎と広島を悲劇から学べることはたくさんあると思います。もし、長崎と広島は原爆資料館で展示されているものを見る機会があれば、地球に住む人の誰もが、大量破壊兵器を撲滅しなければならぬという気持ちや反戦争に對する心を強く持つと思います。

戦争が始まってもおかしくない今の国際情勢ですが、長崎と広島で起きたこと、そして人々の経験を忘れないで、

てはいけません。オーストラリアにいた家族にも知って欲しいと思って、家族への長崎のお土産に被爆者の話が載っている本を買いました。

長崎で不思議に思ったことが一つあります。一本柱鳥居の近くにある



一本柱鳥居

国際墓地で見たことです。以前、日本人のカップルが横浜の外国人墓地でロマンチックなデートをすると言ったとき、僕は「ぼ、墓地でデート？」と思いました。長崎では実際に国際墓地でゴルフをしているおじさんを発見してしまいました。芝生は確かに広くてきれいだけど、「その土の下には、安らかに、そし

て永遠に眠っている人がいるんだぞ！」と強く思いました。私も他の国の方に失礼なことをしないように気をつけなきゃ、と思いました。

今回、長崎に行つて思ったことを書かせていただきました。皆さんにもぜひ、お勧めしたいところです。



墓地でゴルフをする住民



アクランド通り

今年、大府市とオーストラリアのポート・フィリップ市は姉妹都市提携10周年を迎えます。大府市国際交流協会は、その記念に11月に大府市民からなる訪問団の派遣を企画しています。

大府市の姉妹都市って、どんな所かな？と考えたことがある方、ポート・フィリップ市を自分の目で見る

アダム見聞録

知っていますか？私たちの姉妹都市ポート・フィリップ市の巻

国際交流員 アダム・シモンズ

良い機会です。そこでポート・フィリップ市の雑学を簡単に紹介しましょう。

*オーストラリアの東南にあるビクトリア州の首都メルボルン市の隣りにあり、面積は20・62平方キロメートルで、人口は約74、000人。旧セント・キルダ市、サウス・メルボルン市、ポート・メルボルン市が1994年に合併して生まれた市です。

*ギリシア、ロシア、中国などの移民が多く、とても多文化的なコミュニティを形成しています。

*現在のリズ・ジョンソン市長は女性です。市長は、毎年、7つの地区を代表する7人の議員による市議会が選びます。

*1999年の東ティモールの混乱を見て、市や市内企業や市民が力を合わせてスアイという町を2000年から10年の間、支援活動をする事と決定しました。

*海岸・・・ポートフィリップ市はポート・フィリップ湾の湖畔にある海辺の町で、9・2キロメートルの海岸があります。

休日セント・キルダ桟橋で釣りや散歩をする人が多くて、とても人気です。また、原産の動物や植物の生息地で、防波堤にはリトル・ペンギンが生息しています。

*ルナ・パーク・・・海岸の近くにあるこの遊園地は1912年にオープンしました。ピエロの顔の形にしてある門は印象的で、ポート・フィリップ市のシンボルの一つです。



ルナ・パーク

*公園・・・ポート・フィリップ市

には、約176ヘクタールの公園用地帯があります。アルバート・パーク・レイクはメルボルンのF1グランプリの会場として海外でも有名ですが、スポーツやレクリエーション施設もあります。

*喫茶店やレストラン・・・セント・キルダ海岸やルナ・パークの近くにあるアクランド通りのコーヒー・シヨップやケーキ・シヨップは特に有名です。「フィッシュ・アンド・チップス」と「ケーキ」を買って、海岸まで歩いてピクニックするのがお勧めです。

ここには書き切れないほど見どころと、できることは多いです。にぎやかな町でもあります。ゆつくりのんびりすることもできる町で、僕の好きな所の一つです。

11月の訪問団に参加する希望のある方、今後の広報おおぶをよくご覧ください。



メルボルンの風景

前回はポート・フィリップ市を簡単に紹介しました。今回はメルボルンとその周辺の代表的な見所などを紹介します。

現在のメルボルンの土地は、イギリスの開拓移民が1835年に毛布斧、眼鏡、ハンカチ、小麦粉、シャツなどを原住民と交換して、街を作り始めました。1850年代のゴード

アダム見聞録

メルボルン探検の巻

国際交流員 アダム・シモンズ

ルドラッシュで、メルボルンは繁栄し、成長しました。

時計で通名なフリンダーズ・ストリート駅、州会議事堂など、メルボルンの歴史を感じさせる古い建物が今でもたくさん残っています。博物館になった旧メルボルン刑務所もそのひとつです。ここでは、19世紀の囚人の生活、絞首刑執行人の道具、絞首刑された囚人の死面などを見学することができます。

メルボルンとその周辺には緑が多く、王立植物園やキャプテン・クックの家があるフィッツロイ・ガーデンズは特に有名です。賑やかな都会の中でものんびりして、自然と触れ合うことができます。

メルボルン動物園は、日本の動物園と違って動物の自然生息地に近い環境にしていますので興味深いです。メルボルン動物園に行くと、コングリットや悲しそうな動物ばかり

の日本の動物園は楽しくなくなってしまうかもしれません。

モダンでおしゃれなメルボルンが見たい方にはヤラ川の南側にあるサウスゲート地区がお勧めです。喫茶店、様々な料理が味わえるレストラン、ブティック、そしてカジノがあつて、現地人の間でも人気がある所です。

メルボルンから日帰りで行ける面白い所もたくさんあります。フィリップ島のペンギン・パレードは観光客に人気です。たそがれに、何百羽のリトル・ペンギンが海から砂浜を歩いて、巣で待っている子供に一生懸命とった魚などの食料を持って行きます。

山のドライブが好きな方には、メルボルンから約1時間離れたダンデノング山脈がお勧めです。この人気のアトラクションはパフィン・ビリーという汽車です。20世紀

の初期に作られたこの鉄道は今でもたくさんの観光客を乗せて、山と森を走っています。ダンデノング山の天辺の展望台からはメルボルンとその周辺がきれいに見えます。夜景は特に美しく、人気のデート・スポットです。

11月に、大府市国際交流協会は姉妹都市提携の10周年記念として、市民団をオーストラリアのポート・フィリップ市に派遣します。その市民訪問団に参加される方はここで紹介したすべての所には行くことができないとは思いますが、ポート・フィリップ市、メルボルン、そしてその周辺も探検して、多くの日本人に知られていないオーストラリアの一面を「見る」というより「経験」することが出来ます。

口問い合わせ先

国際交流協会 ☎ (45) 6212



初めて日本の学校を見て驚いたの



学生のみなさん、夏休みはいかがお過ごしですか。もうすぐ学校がまた始まりますが、宿題は進んでいますか？

今回、僕の母国であるオーストラリアの学校生活について書かせていただきます。

アダム見聞録

オーストラリアの学校生活の巻

国際交流員 アダム・シモンズ

は、校庭に緑があまりないことです。最初は「工事でもしているのかな」と思いましたが、どの校庭にも芝生がないと分かってちよつと悲しくなりました。オーストラリアでは、校庭が芝生になっていることが当たり前です。「芝生」と言っても、ほとんどが雑草です。雑草でも子供が毎日の生活の中でちよつとした自然に触れ合うことができます。

日本の学校では、ほぼ毎日給食ですが、オーストラリアでは毎日お弁当です。お弁当の中身はおにぎりやご飯とおかずではなく、サンドイッチと果物やお菓子です。お母さんが働いていて、お弁当を作る余裕のない家庭では、子供が自分のお弁当を作ります。でも作らずに学校に行ってしまうと心配は要りません。ほとんどの学校にサンドイッチやお菓子、飲み物などを販売しているキオスク（売店）があります。

子供の放課後生活も大分違います。

学校にいる時や家で宿題をしている時以外、オーストラリアの子供達は勉強しません。予備校や塾はありません。学校でしっかり勉強しているなら塾に行く必要はないと、多くのオーストラリア人は考えていると思います。ピアノ、バレーなどの習い事やスポーツをする子供もいますが、日本ほど多くはありません。放課後は子供が子供らしく遊んだりして過ごす時間だと思っています。

オーストラリアの学校では土日は完全に休みです。土日などの休みには部活もありません。運動部の試合はほとんど平日です。夏になるとプールで水泳をしますが、学校にプールが設置してないため市営のプールを使うことが多いです。

日本と同じように、学校の制服は学校によって違い、色々なスタイルや色があります。制服の色は紺とグレーが一番多く、茶色やその他の色（紫に黄色いパイピングの派手な

ケース）もあります。決まった制服があっても着るのが義務ではない学校も少しあります。あと、たくさんの中学校や高校では女子の制服にズボンもあって、好きな時にはけるので、オーストラリアの制服の方が平等だという気がします。

オーストラリアと日本の学校の違いはたくさんありますが、子供、親、先生の希望や悩みには共通点があると思います。両国の社会が違うから学校や教育制度も違いますが、お互いの制度から学べることも多いと思います。

残りの休みを楽しんでください。





モナッシュ大学（オーストラリア）時代の写真（前列左）



ほとんどの日本の高校生が目指しているのは大学進学でしょう。日本の社会が学歴に執着しているのは確かだと思います。日本には686校の大学があります。その内、512校が私立という事実（オーストラリアは43校、うち私立が2校。数え切れないほど多い塾や予備校の存在などは、その執着から需用があるの

アダム見聞録

オーストラリアと日本の大学の違いの巻

国際交流員 アダム・シモンズ

でしょうね。（オーストラリアには塾や予備校はありません）

日本の大学の数が多いということは、ある程度人口に関係があるかもしれないですね。学校数と人口の割合も日本の方がオーストラリアより高い。オーストラリアでも、大学などの高等教育で資格を取得しないと就職が難しいとされていますが、日本人はオーストラリア人より大学を重要に思っていると思います。

日本の社会では、高校を卒業したら大学へ進学することが当然という気がします。何人かの日本人の友達に聞いてみたら、大体中学生の頃から大学へ進学すると考えていたそうです。日本の教育制度では、高校を決める前に目指す大学を決める人が多いでしょう。しかし、オーストラリアは中学校と高校が一緒になっているため（3年+3年ではなく、6年）、良い大学に入るために良い高校に入らなければならないという考え方はあまりありません。ほとんどの若者は日本でいう高校に入ってから

ら、卒業後に大学へ進学するかどうかを決めます。また、オーストラリア全土に370校以上ある専門学校で様々な職業で役に立つ資格や技能を取得できるので、大学進学は一つの選択肢に過ぎません。

ほとんどの大学に入学試験はなく、日本の大学と比べると入りやすい。高校最後の試験の結果や成績だけで大学に入れます。

両国の大学生とも飲んだり、遊んだりするのが好きですが、考え方にはちよつと違うところがあると思います。僕が日本の大学で勉強していた時、講義やゼミで質問したり、自分の意見を言ったりする学生は少なかつたです。その授業のテーマに関心がないからかもしれないですが、日本の学生は先生を尊敬するから質問をしたり、意見を言ったりするのは先生に失礼だからしないという説も聞いたことがあります。

一方、オーストラリアの学生はよく質問したり、先生と全く反対の意見を言ったりします。先生はこれで

学生がどれだけ授業の内容とかみ合っているかと、どれだけ勉強する気があるかが判断できます。多くの学生は、意見を言ってみようという気持ちで聞いてくれるのがうれしいと思います。

入学は難しいけど卒業は簡単で、日本の大学についてよく聞きます。でもまだ大学を卒業していない、成績もまだ分からないのにスーツ姿の4年生が就職活動できるのは多くのオーストラリア人が不思議に思っています。（大学でどんな教育を受けたかというより、大学名が大事だという気がします）オーストラリアの企業では、応募者の最終の成績も見たいからほとんどの学生は卒業してから就職活動をします。

やはり、大学やその社会への役割などの考え方は国によって違います。各国の教育制度がその国の社会のニーズに合わせてあるため、それが正しいかは言えませんが、他国の制度を見るのはいいつか、自分の社会への利益になるかもしれません。



最近「Karoshi」(カロウシ「過労死」も英語化されてきました。英語では「death from overwork」(仕事のやり過ぎの死)とも言えますが、カラオケや寿司と同じように日本の事柄として思われているからそのまま英語になりました。海外では過労死のようなことで、「日本人は死ぬほど働き好きだ」と思っている人は

アダム見聞録

「Karaoke」(カラオケ)、「Karate」(カテ)、「Sushi」(スシ)の巻

国際交流員 アダム・シモンズ

多いでしょう。僕の母国オーストラリアでも、日本人と言えば「働き者」というイメージを持っている人は少なくありません。

一方、「オーストラリア人はのんびりしているね」と言う日本人によく会います。日本人の感覚で「のんびりしている」は「不精」や「仕事はしない」と同じ意味だという気がします。リゾートのイメージが強いからこう考えている日本人が多いかもしれませんが、オーストラリア人は仕事せずブルのそばでカクテルを飲みながら日焼けしている訳ではありません。確かに過労死したオーストラリア人は一人もいないかもしれませんが、「のんびり」というより優先順位が違うのだと思います。自分の健康や家族より仕事を最優先する日本人がオーストラリア人にとっては理解し難いのです。多くの日本人が休みをあまり取らないことも、オーストラリアでは考えられません。契約に〇〇日間の年休が取れると書いてあったら、〇〇日間の年休を取

ります。一気に2週間休む人もいます。仕事は重要ですが、家族と過ごす時間や休みを取る権利を侵害する程ではありません。

終身雇用の考え方はもう一つの違いです。日本では、大学を卒業したら就職して、定年まで同じ会社で勤めることは当たり前かもしれませんが、オーストラリアではこういう人は珍しいです。多くの人は定年までに勤め先を数回替えます。例えば仕事や仕事をしている環境が自分に合わないから、健康に悪い影響を与えているからなど、理由は人によりますが、ストレスが溜まるような嫌な仕事や職場を定年まで我慢しようとするより、仕事を替えることが病気や過労死を防ぐかもしれません。

の仕事を覚えるよりある部署や技術の仕事を続けた方が効率が良いと思われると思います。

違いは多いですが、いまだに続いている不景気は日本とオーストラリアだけでなく、多くの国の労働者を結ぶ共通点です。リストラによって残される労働者の仕事の量が増えていくため、各国の労働者のストレスも増えていきます。実は「のんびりしている」オーストラリア人は経済能力開発機構(OECD)の加入国の中で平均勤務時間が2番目に長くて、過労死について警告されています。初めは日本の独特な職業病と知られた「Karoshi」はオーストラリアでも現れるでしょうか。その危険性は高まってきたようなので、それを防ぐために、日本人も、オーストラリア人も、自分の生活の中で「仕事」はどんな役割を持っているか、家族や自分の健康より仕事を優先すべきか、考えるといい気がします。いずれにしても、健康には気を付けてください。



今号が配布されている時、僕は大府市とオーストラリアのポート・フィリップ市の姉妹都市提携10周年を記念した公式訪問団の一員としてポート・フィリップ市を訪れていま



アダム見聞録

子どもたちと国際交流の巻

国際交流員 アダム・シモンズ

す。次回、この訪問のハイライトを紹介することを楽しみにしています。ポート・フィリップ市を訪ねる大府市民は、オーストラリアの多文化社会を見て、きつと驚くと思います。オーストラリアの学校では様々な民族の子どもたちが一緒に遊んだり勉強したりして、自然に異文化交流をしています。日本の学校でも外国人生徒の人数が少しずつ増えてきていると思いますが、オーストラリアと比べると日本の子どもたちには、自分とは違う民族の人たちと触れ合うことのできる機会が少ないです。

国際交流の重要性を認識し、日本の子どもたちに国際交流や国際理解を深める機会を与えようとしている人たちが組織が増えていきます。例えば、僕が以前に外国人教師として勤めていた幼稚園や現在の仕

事でよく訪問する市内の保育園、オーストラリア人の英語教育助手のいる市内の小中学校や国際交流部のある一部の学校など外国人との交流を大切にしています。

昨年、設立10周年を迎えた大府市国際交流協会（OIA）も子どもたちに国際交流や国際理解を奨励する場を提供している組織のうちのひとつです。OIAが実施するほとんどの行事では、子どもたちの参加を歓迎しています。また、子どもたちだけ参加の行事も色々あります。ゲームで飢餓を体験し、発展途上国と先進国の食糧事情を学ぶ「ハンガー・バンクット」や世界貿易の仕組みを経験する「貿易ゲーム」。また、環境フェスタや産業文化まつりの国際交流コーナーで、OIAの国際協力活動ボランティアに参加していただき、世界を知り、世界に貢献する機会も作っています。

ゲーム、料理、踊りなどを通して

世界を紹介する大府インターナショナル・キッズ・クラブもあります。7月に行われた第一回のキッズ・クラブでは、約20人の小中学生がクイズでオーストラリアの知識を試して、アンザックビスケットというオーストラリアの伝統的なクッキーを作りました。クッキーの評判はよかったのですが、オーストラリアの名物であるベジマイト（パンなどに塗って食べるもの）の試食後、お代わりは何故か「ノー・サンキュー」でした。

第二回のキッズ・クラブは「ラテンアメリカ」というテーマで、11月29日(土)午後1時～3時に、大府中学校で開催します。ラテンアメリカ（スペイン語・ポルトガル語・フランス語を使う中南米の国々）に留学した大学生の皆さんが中学生にその国々の面白さを紹介してくれます。

ラテン式挨拶でアミーゴになれますか？ 23カ国の巨大パスルでラテンアメリカの地図を完成させることはできますか？ びっくり体験スキットクイズで日本の感覚ではありえないラテンアメリカの日常に驚きます！ 感情は全身を使って表すラテンアメリカ人の心を、ダンスを通じて感じましょう！ お楽しみ満載の2時間になりそうです。

口問い合わせ先

国際交流協会 ☎ (45) 6212



メルボルンは、「一日に四季がある」と言われるほど天気がとても変わりやすいので雨具やコートが必要で、姉妹都市10周年記念訪問団の説明会で訪問団の方々に話しました。しかし、11月の中旬に94人の大府市民がオーストラリアのポート・フィリップ市を訪問していた間、毎日が晴れていて、11月には珍しく気温が39度まで上がってしまい、僕は訪問団に参加した方々に信用されていないかもしれない。でも自然も姉妹都市提携10周年を祝っていると思うほど大府市の方々はとてもいい天気に歓迎されました。

天候だけではなく、11月13日にポート・フィリップ市の方々も盛大なレセプションで歓迎してくれました。同じ訪問団の中で、公式訪問団、市民団、姉妹都市合唱団、大府市民吹奏楽団がそれぞれ別のスケジュールを持っていたため、皆が同じ場所に集まったのはこのレセプションだけでした。ポート・フィリップ側から議員、市の職員、元大府市の英語助手や国際交流員、大府東高校に留学した元エルウッド・カレッジの生徒、その他の姉妹都市交流に関わりのある方や一般市民の方々、それからメルボルン日本国総領事やビクトリア州の関係者を含めて約100人が出席しました。両市のたくさんの方がこの機会に久しぶりに会った友達と話したり、新しい友達を作ったりしているところを見て、本当に良かったです。

クーリ・ユース・ウィル・シェイク・スピアーズの団が踊りでポート・フィリップ市の先住民のアボリジニーの伝統を紹介してくれました。ポート・フィリップ市のジョンストン市長と福島市長が姉妹都市協定を署名して、スピーチでこれからも積極的な交流活動を継続すると示しました。でもやはり、出席していた皆さんの記憶に一番残るのは、姉妹都市合唱団大府・ポート・フィリップ・シスター・シティ・シンガーズとポート・フィリップ市職員合唱団と一緒に歌ったことでしょうか。

大府・ポート・フィリップ・シスター・シティ・シンガーズは2001年に職員交換で大府市に来たヴァーン・クラスティンズさんが設立して、ポート・フィリップ市職員合唱団はヴァーンさんが帰国後に設立したもので、レセプションで歌った「姉妹都市の歌」はヴァーンさんが「上を向いて歩こう」を書き換えた曲です。その前に、各合唱団が独自で全く違うバージョンを歌いましたが、大府市民吹奏楽団の演奏に合わせて両合唱団のメンバーがとても楽しく一緒に歌って、舞台上にいた人も客席にいた人も感動しました。遠く離れている人たちの心を一つにする音楽の力は分かりました。また、両市の市民が一つになると本当に素晴らしいことができるということもよく分かりました。



レセプションの後、訪問団の方々はポート・フィリップ市のスアイの町（東ティモール）への支援プログラムに約75,000円を寄付しました。急にその場で募金をお願いしたのに、大府市の方々がポート・フィリップ市への感謝の気持ちを込めてすぐ出してくださいました。

「さすが大府市民！」と思いました。各訪問団のスケジュールはかなり忙しかつたので、今回は非常に意義のある姉妹都市10周年記念レセプションのことが書けませんでした。次回、大府の方々と一緒に見たポート・フィリップやメルボルンについてお伝えしたいと思います。

アダム見聞録

大府市民とポート・フィリップ市民が一つになった日の巻

国際交流員 アダム・シモンズ